

■今月の特選句

2017年12月

胸元をひろげ案山子の色仕掛け

小林英昭

これは、作者の願望でもあるね。稲雀を追い払うのが案山子の役目だが、こんな案山子がたくさんいてくれたら、男性がぞくぞくと集まる。

干柿の乳房ほどの柔らかさ

井口夏子

干柿は、揉むことで柔らかさと甘味が出る。通常は二度揉む。逆も真なりで、乳房の柔らかさは干し柿ほどとも言える。

顔ぶれにはしごの予感おでん酒

有富洋二

飲む前に「はしご」を予感と言うが、それは予感と言うより期待だろう。おでん酒というよりも、はしご酒。「顔ぶれは今日もはしごの午前様」。

菊に訊く汝に訓読み何故無きや

伊藤浩睦

「音読み」は中国的発音。日本語の意味を当てたのが「訓読み」。菊は花と文字が同時に日本に入ったので、そもそもの日本語読みの訓読みが無い。

白菜の尻を揃へて糶（せ）られをり

越前春生

束ねられた白菜は、いくつもの尻に見え、並べられた大根はラインダンスに見える。感じたままを正直に書く。ただ、こんな句ばかりでも困るがね。

あちら立てこちら立たずや年の暮

八洲忙閑

支払いをすべて済ませてこそ年越ができる。しかし、あちらに義理を果たせばこちらの義理を欠く。人情ではこちらだが義理はあちら。辛いねえ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

職務質問されるぞ案山子その格好 ・・・つぎはぎの服無かつたもので	荒井良明
生身魂免許いらぬ口車 ・・・快活は良し暴走はダメ	青木輝子
風邪引いて堂々家事の手抜きかな ・・・風邪が治れば予後の休養	稲葉純子
われ思ふゆえにわれあり風邪薬 ・・・クシャミしたとき悟る哲学	柳 紅生
スマホとは無縁の暮らし文化の日 ・・・ガラケイすらも使ひこなせず	百千草
今日の月スマホ見る人見下ろして ・・・月は決して殴つたりせず	井野ひろみ
通帳の痩せ衰へて九月尽 ・・・十二月までダイエットだな	小川鈍太
大根のエリート漬けて沢庵に ・・・立派すぎても義歯に嫌はれ	八塚一青
人生はこんなものです捨案山子 ・・・リストラなんて昔からある	南とんぼ
雨月なれつこ七十年も生きをれば ・・・雨より滅入るに妻の暴言	赤瀬川至安
川柳の先生ばかり囲炉裏端 ・・・猫が聴いてもにやんとも言はず	泉 宗鶴
靴箱にゲートル探す開戦日 ・・・戦争回顧展が近づき	氏家頼一
足裏の手相占ふ日向ぼこ ・・・正しく言へば足相だろう	伊藤洋二

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | がら空きのバスに一人や秋の暮
秋時雨牛にビシリと鞭を振り
秋の水巖を二タ手に分かれ澄む | 相原共良
相原共良
相原共良 |
| 【佳作】 | 芸術祭どうにも解せぬピカソの絵
ご迷惑レジでもたつく濡れ落葉 | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 野も空も色取月の中にあり
里の川ニダース程が通し鴨
天高しはやりであるかパズル誌紙 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | なんやかや小言ばかりよ秋の蝶
秋なすび可愛がられて焼かれけり | 赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 【佳作】 | 星月夜子規も明治も百五十歳
子規の忌や四季を詠ひて供華とせむ | 荒井良明
荒井良明 |
| 【佳作】 | 神の留守財布の中の旅行けり
渋柿の鳥のあやまちらしき疵 | 有富洋二
有富洋二 |
| 【佳作】 | 満月に恋する心ありにけり
寒き夜の便座の神はあたたかし | 井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | 明月やいつか踏み荒す星じゃとて
両隣りの秋刀魚松茸香にむせび | 池田亮二
池田亮二 |
| 【佳作】 | 朝顔の花咲かぬまま葉は見事
ハイテク車倒る萩にもピピと鳴る
肌寒や池ポチャバンカー打ち納め | 石塚柚彩
石塚柚彩
石塚柚彩 |
| 【佳作】 | ドローンオタク凧と絡まる腕自慢
凧に付けスマホで空撮動画かな | 泉 宗鶴
泉 宗鶴 |
| 【佳作】 | 高い敷居背面飛びで運動会
西瓜より大きな林檎どうしよう | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | ひとつだけ耳に栓する除夜の鐘
脳トレは俳句に限る年の暮 | 伊藤洋二
伊藤洋二 |
| | 人に似て人とは違ふ案山子かな
月に雲笑ひたいときには笑へ | 稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 | 落葉焚き誰にも告げぬこともある | 稲沢進一 |
| 【佳作】 | ポリバケツ木枯一号の置きみやげ
寒晴は一糸纏はぬ空のこと | 稲葉純子
稲葉純子 |
| 【佳作】 | 運動会出番とマイク校長呼ぶ
神無月されど手合わず頼み事 | 井野ひろみ
井野ひろみ |
| 【佳作】 | どんぐりの誘拐されて引き出しへ
マニキュアをきれいに剥がせば秋澄めり
湯煙を素肌にまとふ秋の宿 | 上山美穂
上山美穂
上山美穂 |
| 【佳作】 | ゲゲゲ忌や片手で捏ねる芋の餅
数へ日の宅急便の多いこと | 氏家頼一
氏家頼一 |
| 【佳作】 | ユニクロのダウン昔は綿入れと
晩鐘やミレーとなりて落穂拾ふ
畑荒す猪牡丹鍋の刑 | 梅岡菊子
梅岡菊子
梅岡菊子 |
| | 友禅はおり石鎚の秋深し | 梅野光子 |
| 【佳作】 | 天守閣その上にきつぱりと秋の空
夕焼に影絵のやうな古都の景 | 梅野光子
梅野光子
梅野光子 |
| 【佳作】 | 乙女座の余生は如何に木の葉髪
小春日の口のほうけし菓子袋 | 越前春生
越前春生 |
| 【佳作】 | 「もつてのほか」頭並べて遊女めく
お神輿の真新しきをタイフーン
益荒男の片手山盛零余子かな | 太田史彩
太田史彩
太田史彩 |

- | | | |
|------|---|----------------------|
| | 汐風と鼻唄歌ひ蜜柑狩 | 小笠原満喜恵 |
| 【佳作】 | 冬深し毛糸編む手の休み休み
愛媛の秋を炬火も選手も燃え上がる | 小笠原満喜恵
小笠原満喜恵 |
| 【佳作】 | 木枯や今年の抱負吹き曝し
年暮れて全国走るミカン箱
月影や慌てて帰宅するカラス | 岡野 満
岡野 満
岡野 満 |
| | 志ん生を聞いて育ちし新酒かな | 小川鈍太 |
| 【佳作】 | 秋天や残る断捨離この身のみ | 小川鈍太 |
| | 放映の神社をはしご小六月
もうとまだ十一月の家族かな | 加川すすむ
加川すすむ |
| 【佳作】 | 凧や戦力外は俺らしい | 加川すすむ |
| 【佳作】 | 終バスやおでんが私を待つてゐる
氷山のさ迷ひ出でてすすり鳴く
植木鉢の三つ葉葵に神頼み | 加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子 |
| 【佳作】 | 生でよし煮てよし大根大得意
颱風や脳も身体もずたずたに
颱風の一つ目小僧大暴れ | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| | 銭形平次どろぼう草を排除する
ひつつきともばかともいわれくつついて | 久我正明
久我正明 |
| 【佳作】 | 萩の花お局さんが手招きす | 久我正明 |
| 【佳作】 | あはあはとアウフヘーベン雁渡る
知恩院三門ぬける風白し
鬼の子に兎島ジーンズストリート | 工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | ほろ酔ひの我を案内の金木犀
混迷の世に立ち往生枯蓮
草枯るとは獣道の現ること | 桑田愛子
桑田愛子
桑田愛子 |
| 【佳作】 | 愛ちやんに太郎の足のからむ藁塚
尻臭がれ頬赤らめてゐる白桃 | 小林英昭
小林英昭 |
| 【佳作】 | 改造し働かぬまゝ総選挙
扇風機あるまゝストーブ出しにけり
民草がお先ご無礼神嘗祭 | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |
| 【佳作】 | 棲めば都火事場のやうな冬座敷
神の留守貧乏神は常住す
行く秋や持病のごとき人恋に | 下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 通を気取り行き成り噓せし走り蕎麦
威し銃試射で主人を先づ威し
顔中の皺寄せ集め食ふ檸檬 | 壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次 |
| 【佳作】 | 身の程を知らぬ輩や秋刀魚焼く
鈴生りの渋柿子も寄り付かず
ファインダー貸し切り孫の運動会 | 白井道義
白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 | 外来種秋七草の陣地取る
昼暗し茸の招く獣道 | 鈴鹿洋子
鈴鹿洋子 |
| 【佳作】 | 星月夜郵便局へ持参する
朝寒や一枚上に着て食べる
ジャスミン茶お菓子ひと口暮の秋 | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| 【佳作】 | 心身の力抜けたり温め酒
能書を言つて始める松手入
餓鬼大将宿題忘れ朝時雨 | 高田敏男
高田敏男
高田敏男 |

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | すさまじや顔認証の五秒間
神在や山の神もおいでかな
トランプのカード気になる冬隣 | 高橋きのこ
高橋きのこ
高橋きのこ |
| 【佳作】 | 荒猪やジビエとなりて卓飾る
風も吹かぬにどんぐりの落ちる頃
ポケットの松茸人の目を集め | 高橋ユミ子
高橋ユミ子
高橋ユミ子 |
| 【佳作】 | 山谷から釜ヶ崎への渡り鳥
長月や老いの身のひとりごと言ふ
己が決意叫んでをりし秋の山 | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | 負けました猿は薯掘り上手なり
見るだけの豪華客船秋の海
寄り添いて鮎の笹焼き(愛の囁き)共白髪 | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 | 新米のどれも気を引くネーミング
秋の音エレベーターの拒否ブザー
柚風呂や虎造気取る浪花節 | 田村米生
田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | 秋燈下新発売のゲーム開け
不審者が笑顔で闊歩ハロウィーン
台風で休校母の予定外 | 月城花風
月城花風
月城花風 |
| 【佳作】 | 耳ふさぐ声の大きい枯紅葉
芋の秋焚き火はできぬ昼下り
風に舞う枯葉とハミング飯の前 | 土屋泰山
土屋泰山
土屋泰山 |
| 【佳作】 | 西へ行く道真つ直ぐや曼珠沙華
一菜にお代わりをする今年米
水澄みてB面映る心字池 | 飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝 |
| 【佳作】 | 忘年会今年も一つ減りにけり
裸木に一葉今日もしがみつき
お江戸では木枯らし一号吹きにけり | 中井 勇
中井 勇
中井 勇 |

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 月面を隠す意地悪山紅葉
路地で焼く秋刀魚の煙に誘はるる
黄落をスマホ相手に行く不粋 | 新島里子
新島里子
新島里子 |
| 【佳作】 | くしゃみして化粧の顔がくしゃくしゃに
ぼろ市の帰り女房を置いてくる
飼猫にそつぽを向かれ漱石忌 | 西をさむ
西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 | 冷まじにあっかんべえして虫歯しむ
明治節再来年には無限遠
ビール党野分の新党目もくれず | 花岡直樹
花岡直樹
花岡直樹 |
| 【佳作】 | 不幸とは竈(かまど)無き世の神の留守
穴惑書いて違和感非の漢字
非常食喰つて颱風遣り過ごす | 原田 曄
原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 | 真つ黒な爪が蜜柑を突き刺しぬ
老いのマフラー美麗の神に詣でけり
赤い羽根選挙終はれば何処へやら | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| 【佳作】 | 会議後に宴会のあり神の旅
スクワットする他になき夜長かな
どう見ても蠟細工なり花八手 | 日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子 |
| 【佳作】 | 新米を炊く新米のママの技
この紳士手元不如意や黄金虫
柿の実や一つ一つに亡母(はは)の笑み | 廣田弘子
廣田弘子
廣田弘子 |
| 【佳作】 | 赤い羽根付けて議場に居眠りす
悴んだ親指スマホ弄ぶ
お爺さんのこのこ茸採りに行く | 藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉 |
| 【佳作】 | 税を喰う台風も喰う総選挙
秋風に唇寒し野党かな
身に凍みて後悔ばかり風見鶏 | 細川岩男
細川岩男
細川岩男 |

- | | |
|--|-------------------------|
| 柿食ふ子規の憂うつ伊予訛り
ジープの破れをにらむ生身魂 | 本門明男
本門明男
本門明男 |
| 【佳作】 つまみ食ひされて綻び柿簾 | |
| 【佳作】 謙虚てふ言の葉軽し秋の風
コスモスや本音を聞けば踊り好き
ハロウィン今年は魔女に成りきれず | 前田和男
前田和男
前田和男 |
| 【佳作】 囲まれて弥勒菩薩の頬に汗
古都の里柿色に染め飛鳥雲
天平の衣はパステルトーン秋 | 松井寿子
松井寿子
松井寿子 |
| 【佳作】 密会のドライブ月に追いかけられ
中腹の自販機枯蔓に慕われて
熱爛の喉通るたび善がり声 | 松井まさし
松井まさし
松井まさし |
| 【佳作】 秋旅のシニア満載ツアーバス
街路樹が枯れを尽くして伸びをする | 南とんぼ
南とんぼ |
| 【佳作】 かなかなやなかなかなせぬなさぬなか
蟻螂の斧ふりかざす女房殿
みちのくの地震を酔はすやにぎり酒 | 村松道夫
村松道夫
村松道夫 |
| 蓑虫も蚯蚓も鳴かせ秋深む
新米やをさなごそつと抱くやうに | 百千草
百千草 |
| 美男子に空気を読めぬ大きくさめ | 森岡香代子 |
| 【佳作】 マスクからこぼれておりぬわらいじわ
日のちかし狸にもどるうちの猫 | 森岡香代子
森岡香代子 |
| 隠れんぼして釜飯の松茸は | 八木 健 |
| 【佳作】 マフラーを襟巻と言ふお婆ちゃん
手紙書こうか散歩しようか小春の日 | 八木 健
八木 健 |
| 明日は明日けふはけふとて神の旅 | 八洲忙閑 |
| 【佳作】 医者の不養生秋葉山から火事 | 八洲忙閑 |
| 【佳作】 火花散り客よく燃える博多場所
猛進のなれの果てかな牡丹鍋 | 八塚一青
八塚一青 |

- | | |
|--|----------------------------------|
| <p>鰯雲打球死ぬ間を疾走す
【佳作】 七人を向かうに回し報恩講</p> | <p>柳 紅生
柳 紅生</p> |
| <p>池田氏の失せし笑いが戻る冬
【佳作】 冬の旅化粧で隠す老いの皺
萩振るる犬も散歩や尻尾振る</p> | <p>柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子</p> |
| <p>【佳作】 おでん鍋息吹き冷ます喉仏
立呑屋おのれをあやす寒夜かな
ゑひどれて帰る夜道や去年今年</p> | <p>柳村光寛
柳村光寛
柳村光寛</p> |
| <p>全身の緑に見えて青蛙
将棋にて一戦交え湯に向かう
【佳作】 静寂の桜紅葉と変容す</p> | <p>山下正純
山下正純
山下正純</p> |
| <p>何を活けてもコスモスに敵はない
【佳作】 蜻蛉来る馴染の杭は水の中
銭湯の帰路のくしゃみが止まらない</p> | <p>山本 賜
山本 賜
山本 賜</p> |
| <p>【佳作】 認知症つかひ分けをり木の葉髪
煤逃を見て見ぬふりのさびしかりけり
茸狩あげくに恨み背負はされ</p> | <p>横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎</p> |
| <p>自分史の余白確かむ年の内
若者よ綿虫見よや命惜しめ
【佳作】 バッジなき議員が仰ぐ冬の月</p> | <p>吉原瑞雲
吉原瑞雲
吉原瑞雲</p> |